

位置指定道路の構造基準

建築基準法施行令第144条の4（道に関する基準）

1. 道路延長の測定方法

- (1) 図1、図2のとおり、道路中心線を基準とし、起点から終点の長さとしします。
- (2) 道が同一平面で交差し、若しくは屈曲する箇所については図3から図5とします。
- (3) 法第42条第2項のみなし道路に接続する場合は、図6のとおり、みなし後退線をもって起点とします。

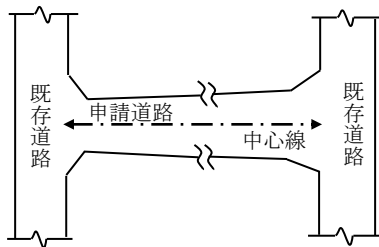


図 - 1

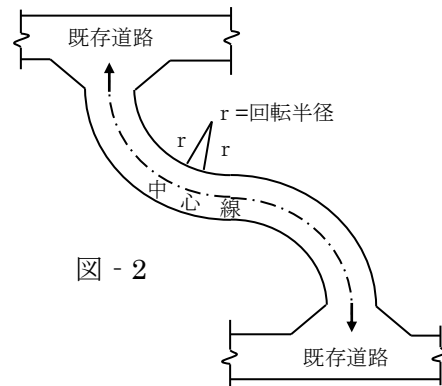


図 - 2

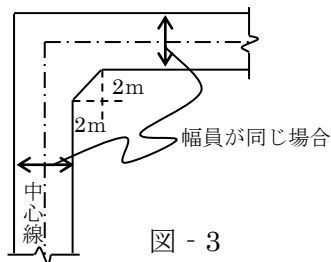


図 - 3

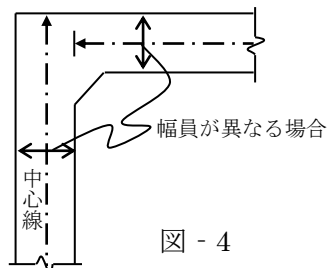


図 - 4

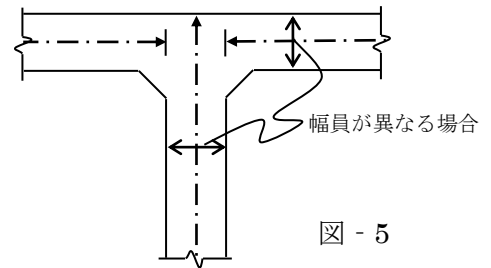


図 - 5

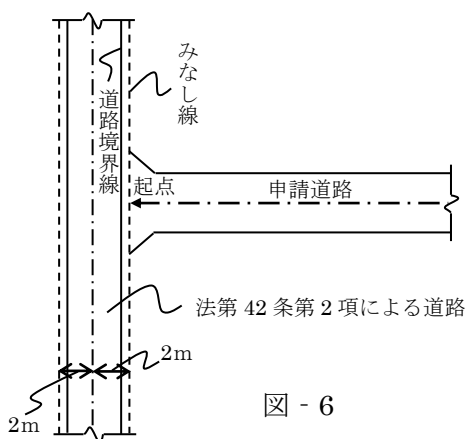


図 - 6

2. 道路幅員の算定方法

各部分の幅員は、図7のとおり、道路の中心線を基準として直角に測定した長さとしします。

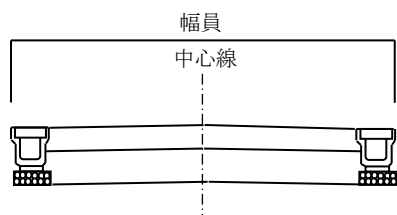


図 - 7

3. 既存道路と指定道路の接続方法

- (1) 接続する部分の辺の長さは、図8のとおり、指定道路の幅員以上とすること。
- (2) 法第42条第2項のみなし道路の終端に変則的に接続する場合には、図9に例示するもの、又はこれに準ずるものとしてください。

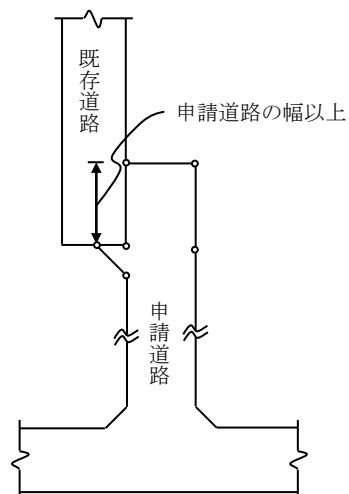
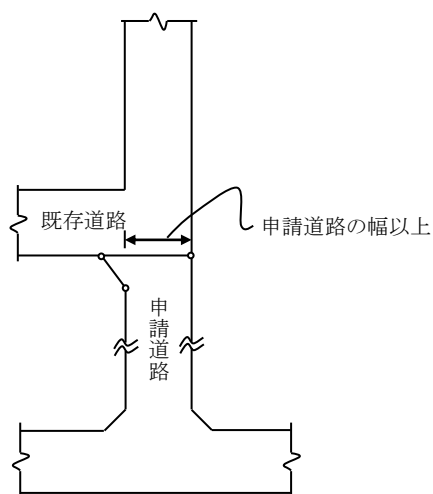


図 - 8

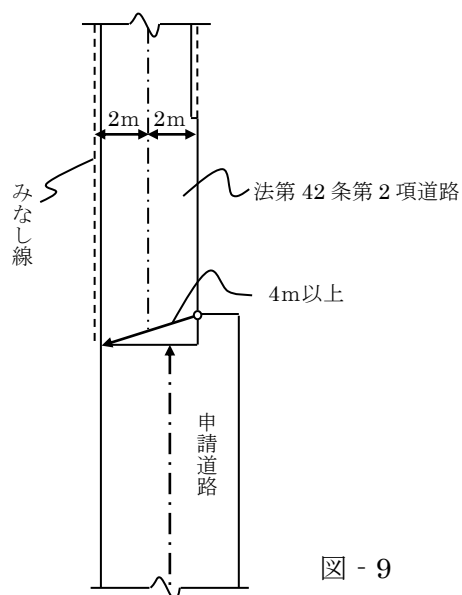
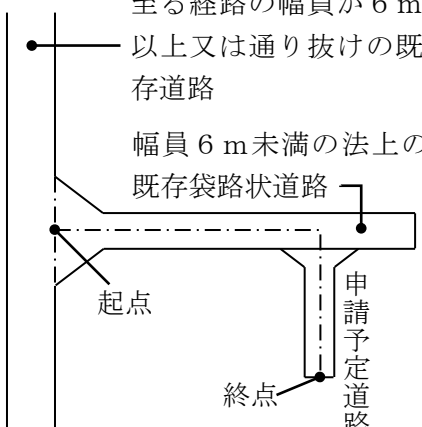
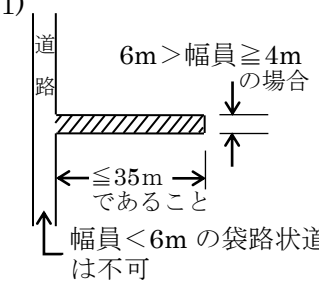
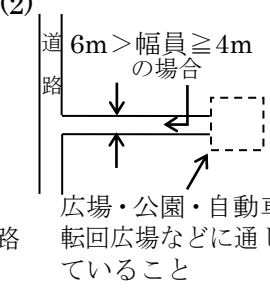
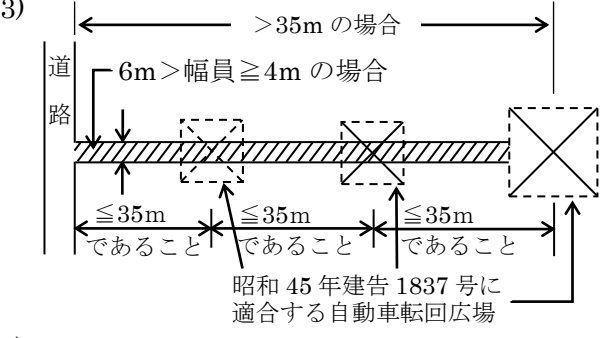
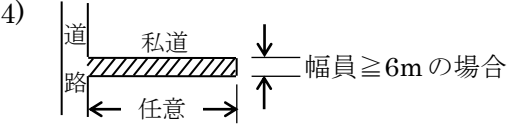
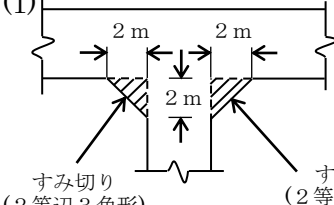
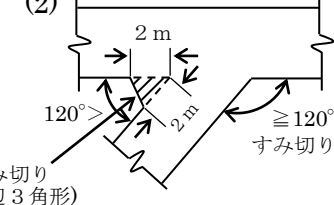
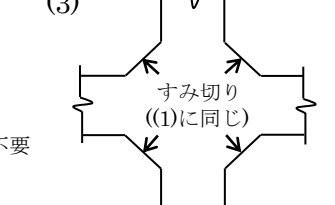
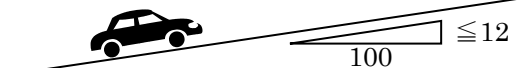
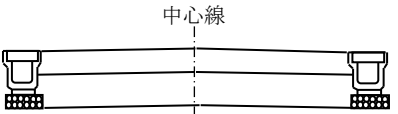


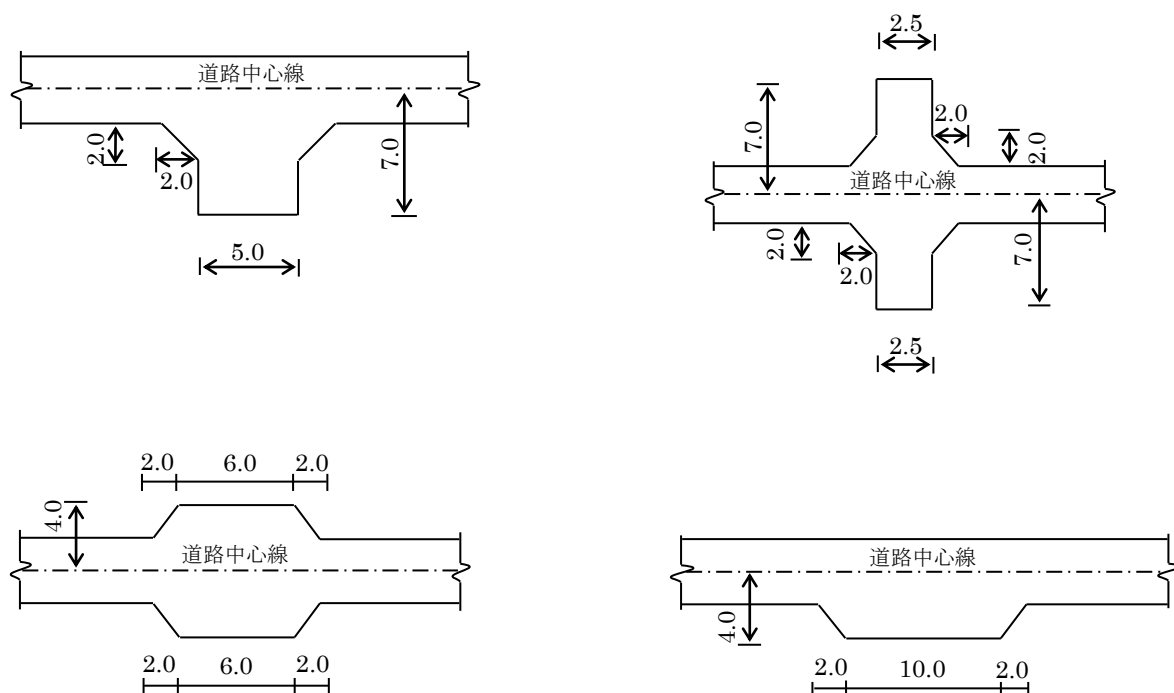
図 - 9

4. 位置指定道路の構造基準

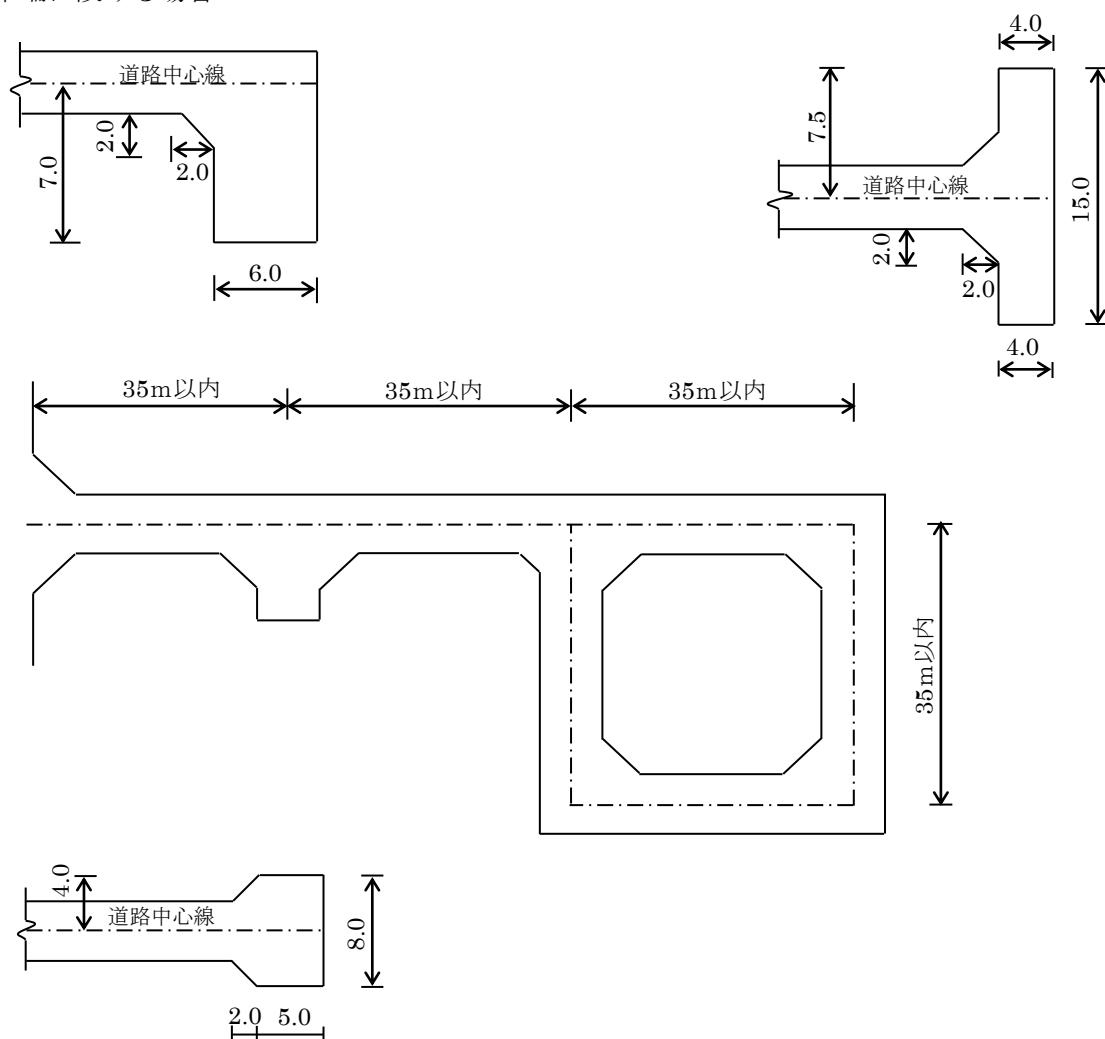
①幅員・延長 などの条件	両端が法第42条道路に通ずる場合 ※袋路状道路の場合 幅員6m未満の既存の袋路状道路に接続する道の場合には、当該袋路状道路が他の道路に接続するまでの部分の延長を含みます。  至る経路の幅員が6m以上又は通り抜けの既存道路 幅員6m未満の法上の既存袋路状道路 起点 申請予定道路 終点 ※延長合計が35mを超える場合には、既存の袋路状道路も含めて、右図の基準に適合するように改良しなければ、新たな位置指定道路の指定・築造はできません。	幅員 ≥ 4 m 次の(1)～(5)のどれかに該当すること (1)  (2)  (3)  (4)  (5) (1)～(4)に準ずる場合で、特定行政庁が避難・通行上、支障なしと認定した場合。
②交差部、接続部、屈曲部の隅切	(1)  すみ切り (2等辺3角形) (2)  すみ切り (2等辺3角形) (3)  すみ切り ((1)に同じ)	
③表面の仕上げ	(1) 砂利敷、アスファルト舗装、その他ぬかるみとならない構造としてください。 (2) 既存道路に接続する場合は、各道路管理者の条件が掲示される場合があるので、その条件に従って道路の表面の仕上げ等を設計してください。	
④縦断勾配	(1) $\leq 12\%$ (2) 段を設けない。 	
⑤排水施設	位置指定道路外周に、道路及び周辺敷地の排水に必要な下図のと通りの 24cm $\times$ 24cm 規格以上の落蓋式コンクリート側溝を設置するようにお願いします。 	

5. 転回広場の基準（道路幅員 4 m の場合）

(1) 中間に設ける場合



(2) 末端に設ける場合



6. 位置指定道路の分筆の位置

地形により異なりますが、一般的に平坦な土地の場合は図1の道路幅員と同様の区域で分筆することとなります。しかし、図2のように位置指定道路の路盤が高い場合、図3のように宅地開発で段状の形態となる場合には、位置指定道路の形態が維持できるよう道路敷地で分筆することが基本ですが、このような事例の場合には、将来の沿線の土地利用を勘案のうえで決定することとなります。

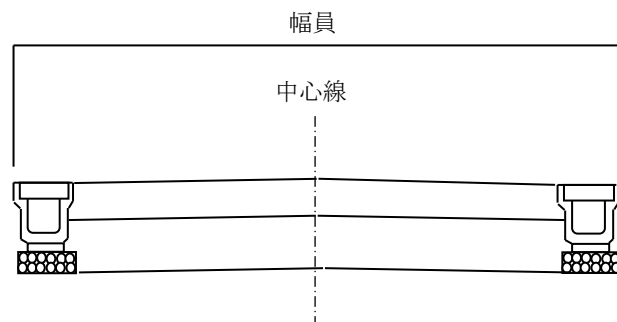


図 - 1

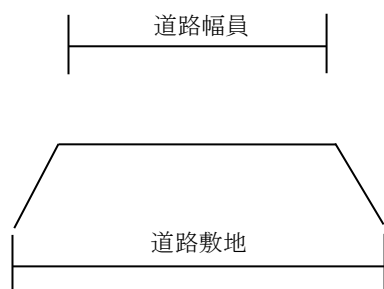


図 - 2

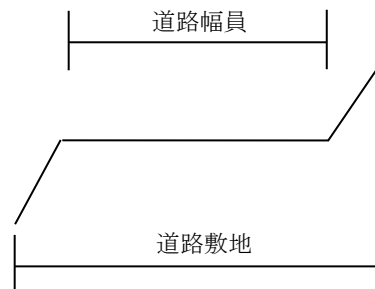


図 - 3